

# くらふと

## 県育協だより

発行  
鳥取県子ども家庭育み協会  
広報委員会  
第40号

### 第69回中国地区 保育研究大会

鳥取県子ども家庭育み協会

副会長 佐藤 比登志

第69回中国地区保育研究大会が、7月11日(木)～12日(金)鳥取県立とりぎん文化会館に於いて「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざしてをテーマに、開催されました。

開会式では、来賓の皆様の祝辞に続いて、前年度大会処理報告が岡山県保育協議会 服部剛司会長より報告されました。全国保育協議会 伊藤唯道副会長による基調報告では、すべての子どもの誕生前から幼児期までの「はじめの100か月」から生涯にわたるウェルビーイングの向上を目的とする幼児期の子どもの育ちに係る基本的なビジョン(初めの100か月の育ちビジョン)概要について、また、このことに基づく施策の推進について、こども家庭庁が司令塔になり、具体策を一体的・総合的に推進することなどが報告されました。こどもまんなか実行計画2024の概要については、多岐にわたる盛りだくさんな内容で、国の本気度を感じることができました。

休憩を挟んでそれぞれのテーマによる分科会が開かれ、有意義な会でたくさん学びをいただいたと参加者からの声がありました。

2日目の記念講演では「安心感の輪」が拓く子どもの未来と題して、東京大学大学院教育学研究科の遠藤利彦教授にアタッチメントと非認知的な心の発達についてお話をいただきました。安心感の輪について、物理的に「くっついていること」そのものよりも「いざとなったらいつでも戻ってくつつける」という感覚の重要性について、またそのことにより探索・冒険・自発的遊びにつながるということ、「安心の



基地」としての大人の役割について考えることができました。

閉会式では、鳥取県子ども家庭育み協会 大橋和久会長より閉会の挨拶とともに時期開催地であります第70回中国地区保育研究大会広島県大会中本悠哉実行委員長へバトンが渡され、花束贈呈とともに大会の幕が閉じられました。

分科会助言者の七木田敦先生、重村美帆先生、高橋千枝先生、齋藤頼陽先生ありがとうございました。大会係員をはじめたくさんの方々にお世話になりました、ありがとうございました。来年、広島で会える日を楽しみにしています。

#### 県別参加者数

県 別	参加者 (人)
鳥根県	66
岡山県	36
広島県	31
広島市	31
山口県	43
鳥取県	153
合 計	360

## 第1分科会

「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」

助言者

広島大学大学院人間社会科学研究科

教授 七木田 敦

提案者

広島県 常石すすくすくハウス

保育教諭 中村 賀世子

保育教諭 大久保 小百合



第1分科会では、子どもや保護者に対する保育・子育て支援関係者としての関わり方、あるいは保育者としていかに寄り添い、支援を行うべきかについて研究を深めるという趣旨のもと研修が始まりました。

はじめに、常石すすくすくハウス

の1対1の配慮を必要としていたA児が自然にみんなの中に馴染んでいた一年間の実践報告がありました。

発語が少なく「泣く」ことで気持ちを表現したり、抱っこを求めたり、音が苦手で友だちがいる保育室に入れなかったA児の困り感や不安を保育者が受け止め、抱っこを求められれば抱っこし、静かな部屋で過ごすなどすることで安心して生活できるようになったこと。A児と保育者の関わりを見ていたC児がA児にハンドタッチをしたことをきっかけに周りの友だちも同じようにA児に関わるようになり、A児の行動や人とのつながりが広がっていった取り組みを報告され、お互いが成長し合うインクルーシブ保育の可能性について発表されました。

次に、助言者の七木田敦先生が、インクルージョンの考え方、見て学ぶ（モデリング）ことの重要性、支え合う保育集団の必要性について講義されました。

インクルージョンは、配慮が必要な子どもができることを増やし定型発達に近づけていくことではなく、私たち自身が相手のことを

考えて行動を変えていきながら共に成長していくことがとても大切であるとされました。

配慮の必要な子の苦手なことからではなく、プラスの特性を見つけることが大事。問題行動ばかりに着目すると、問題行動をやめさせたいという保育者の思いが強くなり、得意なことが見えなくなってしまう。その行動の原因を取り除き（合理的配慮）適切な環境を作ることが必要である。周りの友だちと支え合いながら生活、活動する中でモデルとなる子どもの姿を観察、模倣することでも学習は成立する。そして、良いタイミングで褒められたり、認められたりすると満足感や楽しさを味わうことができる。自分のペースで選び充実した時間を過ごすことが重要であると話され、配慮が必要な子も周りの友だちも保育者も支え合いながら互いが成長し合うインクルーシブ保育が基本であり、支え合う保育集団による多様で柔軟な保育の実践がインクルーシブな社会を構築することにつながると締めくくられました。

そして、分科会の最後に、常石すすくすくハウスの三須園長先生

## 第2分科会

「保育者の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する」

助言者

宇部フロンティア大学短期大学部

保育学科 准教授 重村 美帆

提案者

山口県 宇部市立第二乳児保育園

保育士 三浦 久美子

山口県 宇部市立西岐波保育園

保育士 網谷 健太

第2分科会では、宇部フロン

ティア大学短期大学部保育学科准教授 重村美帆先生を助言者にお迎えし、山口県宇部支部が研究発表されました。近年の保育経験年数の少ない保育士への保育の継承がなされにくいという課題点か

ら、「研究部会わらべうた」を立ち上げ、「こどもも大人も『楽しむ』わらべうた」を研究テーマとし実践的な研究が進められてきたと発表されました。各園でわらべうたの園内研修や、年間計画を作成・再検討して日々の保育に取り入れるとともに、振り返りや考察を繰り返して研究する中で、こどもを見る視点が広がり保育の質の向上につながったと報告されました。

続いて助言者の重村先生より、『こどもも保育者も楽しむわらべうた』から考えるそれぞれの主体性」と題し、①保育に関わっている人たちがそれぞれ誰が・どのように楽しんでいるのがポイントである。②時代とともに価値観が変わっていく中で、新しい時代のこどもたちが今ある価値観を正しいかどうか、自分で判断できる力をつける保育を日々私たちは行っているということ意識していく。③こどもは生まれた瞬間から大きな好奇心を抱き探求を始めていくものであり、その世界を守っていくことが保育の原点である。④保育者の主体性とは、本当にこどものためになっているのか常に問い続けることである。と指導助言を



いただきました。

続いて、「どんどんばし」遊びを体験し、会場が一体となった後には、事例をもとに参加者の気づきをグループで討議、共有し、活発な意見交換が行われました。こどもも保育者も「楽しさを自分で選びとる」保育を目指していくこと、こどもが楽しむためには保育者が楽しむことが大切であると助言をいただきました。

最後に、いかに保育者がこどもに寄り添い主体性を引き上げていくか、一緒に「楽しい」を作り上げていくかが保育の魅力になるというお話から、広い視点を持って

こどもの「たのしい」のためにできること、保育のあり方について考える機会になりました。

記録者

河崎保育園 岡田 由衣  
白兔保育園 松浦 美保子

### 第3分科会

「子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた関係機関とのネットワーク」

助言者

東北学院大学文学部教育学科

准教授 高橋 千枝

提案者

鳥取県 鳥取市立浜村保育園

植田 京子／田中 映子

保育園のこどもたちからの時節折々の季節の便り・小さな発信の数々が、関わり合う人々の心の育ちから地域のセーフティネットワークづくりまで、保育園がどつしりと地域の社会資源として根を下ろしている実践報告であり、まさに保育園の底力を見る思いでした。こどもも職員も保護者も、地域に共に生きるひとたちが、地域防災力をも何重にも厚み・強さ・継続力、

地域の輝きを増していくのだろうな、そんなイメージを持ちました。過疎化・少子化の影響により新興住宅地が一代限りで空洞化する地域もある中で、何世代にもわたって住み続ける・子育てできる場所になり得る地域づくりへのヒントにもなりそう。

私自身、「一番、こどもに育てたいこと・受け止めてほしいこと・根っこに持つてほしいことは何か」ということを考えさせられ、ひととひとをつなぐ育ち合い・関わり合いを真に保育園は担っているのだという原点に立ち返った想いで聴いておりました。



今、自園がやっているこの連携・してきたこと（積み上げてきたこと）・今のやり様・このつながりで良いのだな、振り返りを生かすことはもちろん必要だけれど、今以上頑張らなくても何か目新しいことをしなくてもいいのだと、そんな風にその場にいた参加者はみなさんが思えたのではないでしょう

か。そして、高橋先生に感謝申し上げます。理論（指針を手掛かりにした解説等）と実践をわかりやすくつないでくださったこと、そして園・保育者たちの頑張りへのエールもありがとうございました。分科会最終盤、どの参加者たちの顔にも嬉しさとホッと安心したような安堵の表情が浮かびました。当初、討議の時間を設けていなかったのですが、参加者から実践詳細や周辺事情について、「もっと知りたい」「もう少しここを教えて」と質問や感想が活発に出て、先生の豊かな解釈が彩りを添えて、今後の園生活・保育の広がりや課題的なことへも解決や取り組みの糸口を与えてくださったように思います。

最後に、まとめて高橋先生が

おっしゃっていた「何のための保育か、こどものための保育ですよね」について「園で働く私たち自身も確信を持っていえる本当の「こどもまんなか社会」が実現することを願って…。

記録者

夕日ヶ丘保育園 坪栄 暁子  
うつぶき保育園 牧村 紫をり

## 第4分科会

「演劇表現【開催地企画】」  
講師

特定非営利活動法人鳥の劇場  
副芸術監督・俳優 齊藤 頼陽

第4分科会では、「鳥の劇場」の副芸術監督であり俳優の齊藤頼陽先生を講師に迎え、「演劇表現」と題して講義やグループワーク、実演指導を受けました。私たちは普段、物を扱う際に特定の動作を行います。その動作を演劇の表現に取り入れることで、「その物」自体やその模造品がなくても、表現によって「その物」を形作ることもができることに気づかされました。例えば、重い物を持っていることを表現するためには、両腕に



力を入れ、腰を沈める動作を行います。これにより、観客に対して重い物を持っているという印象を与えることができます。一方、軽い物を持っていることを表現する場合は、片手や手のひらで軽く持つ動作を行います。例えば、羽根や紙のような軽い物を扱う際には、手のひらで軽く持ち上げる仕草をすることで、その軽さを表現します。風船のように浮き上がる物を持つ場合は、紐を持ち、視線を上に向けることで、風船が浮い

ていることを示すことができます。これらの動作を通じて、観客の想像力を刺激し、持っている物の重さや性質を伝えることが重要です。観客が意図どおりに想像してもらうためには、どのような情報を伝えるかを考えながら、動作を工夫することが求められます。

また、観客が想像を放棄してしまった場合、伝えることが困難になります。例えば、「海」というシーンを伝える場合、海辺で寝そべる人を表現する際には、その人が浜辺に寝そべり、足は海側を向いていると観客が自然に想像するでしょう。しかし、演じる人が海側に頭を向けてしまうと、観客のイメージと異なるため、想像を放棄し、伝わりにくくなります。

このようなポイントを学び、実際に問題をもちて自由に演劇をするとしても、分科会の中で行われました。各グループでどのようにして観客に伝えるかを考えながら、自分たちの保育園での演劇指導にどう活かせるかを模索することができました。

記録者

さとにこども園 木村 禅文  
梅檀保育園 西村 孝太

## 各研修会報告

## 主任保育士研修会

こやまこども園 中原 美喜

6月6日(木)にWEBによる主任保育士研修会が開催されました。掛札逸美(心理学博士)先生をお迎えし、「深刻事故の予防。安全面から向上させる『保育の質』」と題してお話を聞かせていただきました。

大前提には子どもの命を守るのは大人の責任であることや、事故を予防するために具体的なルールを教えることは大切だが未就学児は自分でケガにつながる行動の静止が難しく、それが死につながる

可能性があることや死そのものを十分に理解はしていないということとを話されました。

近年、世界的に気温、湿度が以前よりかなり上昇しています。水遊びが始まる時期でもありますが熱中症は命にも関わってきますので、暑さ指数28、気温30度以上になるようであれば外に出ないで温度、湿度を調節した室内でしっかりと遊ばせることが大切です。暑くても以前は外で〇〇していましたが、〇〇な経験をさせたい等の保育者の主観的な価値観の押し付けにならないよう保育の価値とケガのリスクの線引きが重要です。暑さ指数、気温の目安になる数値はデータを基にした根拠のある数値であることから、例えば水遊び等は6月、10月など涼しい時期に計画するなど、天候や年齢などに配慮した子どもたちの成長発達のための活動を考えていくことが保育の質に直結すると話していただき、私たちの意識改革が必要だと感じました。ケガや誤飲などに関しても、ケガは結果であって、ケガにつながる出来事はたくさんあること、その出来事から検証・検討を行い、価値とリスクの線引き

掛札先生

を行いながら具体的な改善策を実施し、ケガの軽減・予防につなげていくこと、保護者の方とも共有していくことが大切だと話されました。

現在、今の科学を基に実践と結果を集めて1冊にまとめる作業をされていることをお聞きしました。そこから更に学ばせていただき、大人の責任として子どもたちの命を守ることを大前提とした安全な保育のために環境や内容の見直しを行い、保育の質の向上につなげていきたいと強く思いました。

## 保育士研修会

のぞみ保育園 福本 麻紀

保育士研修会が6月24日(月)福祉人材研修センターにて開催され、鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 幼児教育コースの佐々木晃教授から、「専門性を生かした保育の展開」と題して、ご講話をいただきました。保育現場の視点から捉えた保育者の専門性や非認知能力の育成、今後求められる保育のあり方など、ご示唆をいた

いただきました。

講演の中で「なにげなくやっていることが保育士はすごい!」「もっと周りにアピールしていくべきだ」と保育士の役割の素晴らしさを繰り返し伝えてくださいました。だからこそ、これからの時代は質の高い専門性を「言語化」「見える化」「わかる化」することが必要であり、記録に残したり、保護者に意識して伝えたりしていかなければならないと改めて感じました。

また、「主体性の根っこは自己肯定感」というお話では、自己肯定感・自尊心がベースにあるから自信が育っていくが、自信だけがあっても、自己肯定感は形成されない。正しい自分の守り方が分らなかったり、自分で判断できなかったりする子どもの現状は、自



佐々木教授

尊心の低さが要因になることもあ  
ると研修をとおして気づかされま  
した。子どもたちのいろいろな体  
験をとおして身に付いた「できた」  
や成長を保育士がリスペクトする  
関わりや、ポジティブな言葉がけ  
が、自己肯定感を高めることにつ  
ながっていくことを再認識し、そ  
の時々に必要な関わりや経験を大  
切にしながらい日々の保育を積み重  
ねていきたいと思っています。

心情・意欲・態度の非認知能力  
を育てる日本の幼児教育は世界最  
先端といわれています。「子ども  
たちの未来を、私たちは担ってい  
る」と話された佐々木先生の言葉  
を胸に刻み、今回の学びを職員間  
で共有するとともに、責任と専門  
性を磨き続けながら、子どもたち  
の健やかな育ちにつなげていきた  
いと思います。

## 第1回食育研修会

白ゆり保育園 山下 成美

第1回食育研修会が6月24日  
(月) 7月3日(水)までオン  
デマンド配信されました。

一般社団法人 母子栄養協会

母子栄養指導士・管理栄養士 茅  
野陽氏を講師に「乳幼児における  
誤飲誤嚥の事故防止」についてご  
講演いただきました。

乳児の咀嚼は、歯だけではなく、  
歯ぐきや舌などを主に使って食べ  
るので、離乳の初期、中期、後期、  
完了期と食べ物の調理形態に気を  
つける必要があります。子どもは、  
気道の直径が成人よりも小さいの  
で、小さな異物でも詰まりやすく、  
咳の反射もまだ弱く、詰まった物  
を外に排出しにくいので、弾力性  
や繊維が固い食材などは、小さく、  
薄く、細かく切り、唾液を吸収し  
て飲みづらい食材は、片栗粉でと  
ろみをつけたり、味をしみこませ、  
やわらかくしつかり煮込むなど配  
慮が必要不可欠になります。また、  
調理して提供する私たちが、球形  
という形状が危険な食材、粘着性  
の高い食材、固すぎる食材などの  
知識をしつかり持つことの大切さ  
を改めて感じました。子どもたち  
に、食事時の食べる姿勢、急いで  
食べない、しつかり噛んで食べる  
ことを日頃から伝え、事故防止に  
つなげたいと思います。

食事介助をする際には、  
・ ゆっくり落ち着いて食べるこ

とができる子どもの意志に  
あったタイミングで与える  
・ 子どもの口にあった量で与え  
る(1回で多くの量を詰めず  
ぎない)

・ 食べ物を飲み込んだことを確  
認する(口の中に残っていない  
かを注意する)

・ 汁物などの水分を適切にあた  
える

・ 食事の提供中に驚かせない  
・ 食事中に眠くなっていないか  
注意する

・ 正しく座っているか注意する  
などがあります。椅子に座り、  
足が地面に着くことで、姿勢が安  
定し、あごに力が入り、唾液が多  
く出るようになります。食事介助  
する際の注意点、事故対応の対処  
法など保育士ときちんと共通理  
解、連携していきたいと思ひます。

事故対応として、事故に気づい  
たら直ぐに迷わず救急車を呼び、  
救急車が到着するまで自分たちが  
できる対処法(腹部突き上げ法・  
背部即打法・胸部突き上げ法)も  
しっかりと身につけておくことの  
必要性も感じました。

## 初任・初級保育士 研修会①②

ひばり保育園 松原 葉子

初任・初級保育士研修会①が7  
月24日に、同研修会②が8月28日  
に行われました。

研修会①は、参加者は鳥取県立  
福祉人材研修センターに集まり、  
はじめに、アイスブレイクで3つ  
のゲームをしました。初任研修で  
すので、保育士として社会に出た  
ばかりの方が多く、なんとも言え  
ない緊張感のある会場でしたが、  
ゲームを進めるうちに表情もほぐ  
れ、声も大きくなり、和やかな雰  
囲気となりました。気持ちがあぐ  
れたところで、川辺先生に「子ど  
もの育ちや学びを語り合い、保育  
を可視化しながらより豊かな保育  
を実践する」をテーマに、ZOOM  
Mでご講演いただきました。川辺  
先生が撮影された保育の写真をも  
とに、子どもの育ちや学び等、保  
育の中で大切にしたいことについ  
てお話を聞きました。グループに  
分かれて、意見交換も行いました。  
写真を見ながらそこに写っている  
子どもたちの思いや成長に思いを



馳せ、思い思いの保育について語り合いました。

研修会②では、全員ZOOMでの開催でした。事前に実際の保育の写真を撮影してもらい、それについて発表し合い、意見交換をしました。青年部員がファシリテーターとなり、各々の写真をもとに、子どもたちが何を感じ、考え、何をしようとしていたのか、それを受けて保育士である私たちは、何を感じ、どのように保育を展開し実践していったのか発表し語り合

いました。研修会①と同じグループなので、顔見知りではありませんが、研修会②ではZOOM開催ということもあり、緊張感が再来し活発な語り合いに発展するまで少し時間がかかりました。それでも、少人数で十分な時間が設けてあったことから、じつくりと語り合うことができました。

保育現場から離れ、保育の一面を写真で切り取り、それについて違う園で働く保育士が保育について語り合えることは貴重な機会です。それぞれの保育に対する思いを大切にしながら語り合うことの面白さを感じた研修でした。

## 第1回障がい児保育研修会

加茂保育園

古前 智美

8月3日(土) エースパック未来中心において、第1回障がい児保育研修会が開催され、鳥取県立米子養護学校教育支援部教育相談担当教諭・自立活動エキスパート山内章平氏を講師に迎え、「学びの土台を育てることの大切さ」(落ち着きがない、姿勢が崩れやすい、過敏な子どもたち等への指導につ

いて」と題して、ご講演いただきました。

現在、生活環境などの変化や経験不足などから、診断のないはずの子でも脳のバランスを崩し「落ち着きがない、姿勢が崩れる、動きがぎこちない、感情のコントロールが難しい」などの問題が生じる子が多くなってきました。

人の身体も脳も発達の順番があり、その順番を跳び越えてしまうと、発達に抜け落ちが生じ、発達の土台がしつかりできずバランスを崩してしまうそうです。例えば、脳は(①からだの脳②おりこうさん脳③こころの脳)の順に発達していきますが、からだの脳が育っていない段階で早期教育や机上学習をしていくと脳のバランスを崩してしまうため、発達障がいのような行動があらわれ、勘違いされる「発達障がいもどき」の子が多くなっている。また、発達プロセスが不十分のまま身体が成長すると、本来は徐々に出現しなくなるはずの原始反射(モロー反射や把握反射など)が残存してしまい、発達のプロセスにヌケが生じてしまいうことがあり「落ち着かない、姿勢が崩れる」など同様の問題が生じる。

原始反射は、子どもだけでなく大人でも残存していることがあり、原始反射を統合するには、本来、発達の中で出現する反射の動きを繰り返すことが必要だそうです。

具体的な実践事例も交えてのお話や、保育者同士で反射の残存確認をし合ったり固有覚を体験したりする中で、それを分かりやすく知ることができました。子どもたちの気になる行動の原因がどこにあるのかを感覚統合や発達の段階の視点からも考え、今、その子がどこに躓いているのか、どんな経験が必要なのかを見極め、「からだ」と認知はつながっている」ということを頭に置きながら活動や遊びの中で感覚を育てる運動などを楽しんできたいと思います。



山内教諭

# 私たちの園

## 伯耆町立こしき保育所

### 施設の概要

伯耆町立こしき保育所は鳥取県西部の米子市から車で20分圏内の場所に位置し、園庭から大山を望む自然豊かな環境のなか日々の保育を行っています。

### 保育理念

子ども・子育て支援制度に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図る。

### 保育方針

子どもの特性に配慮した保育環境を提供し、「生きる」基礎となる力を育成する。



### めざす子ども像

生活や遊びを通して生きる力の基礎を身につける。  
～明るい子ども・がんばる子ども・助け合う子ども～

### 保育目標

- ・様々な事に興味関心を広げ、遊びや生活の中で自分で選び自分で決める。
- ・自分と異なる考えや思いに気づき、折り合いや協力をしようとする。
- ・生活に必要な身の回りのことを自分でする。元気な返事ができる。



所在地：鳥取県西伯郡  
伯耆町大殿2574番地  
定 員：140人  
所 長：小 椋 計子（おぐら けいこ）



# 園を知る3つのポイント



ポイント  
1

## 異年齢での交流活動



異年齢活動や友達との関わりを楽しむことを通して子ども達の育ちあう力（コミュニケーション力、遊びを広げる力）を育てています。人と関わることの楽しさを経験することで自然と思いやりの心や自己有用感を得られることを期待して活動をしています。



ポイント  
2

## 食育活動を通して



地域の方にも協力していただき、菜園活動を行っています。また子ども達が世話をした育てた野菜でクッキングをしたり、毎月の食育週間の取組みで食への関心を深め、生きる力の基礎を育てています。



ポイント  
3

## 身近な地域、自然との触れ合い



町内の身近な場所に豊かな自然環境があり、園外保育に出かけて地元の季節の自然と触れ合っています。また保育所周辺の散歩にたくさん出かけて地域のことを知ったり、身近な自然環境とたくさん触れ合って地域の自然を楽しんでいます。





## うっちー先生のえほんばなし⑫



絵本作家の中で【夫婦で絵本作家】は珍しくありません。詩人谷川俊太郎氏と『100万回生きたねこ』（講談社）佐野洋子氏は夫婦（だった時がある）別々の作品を出版しています。

『せんろはつづく』（金の星社）の竹下文子氏と鈴木まもる氏のように、共著があり、それぞれの作品もあるという形もあります。今回のえほんばなしでは、夫婦で共同制作をしている絵本作家に注目!!

### tupera tupera

亀山達也氏と中川敦子氏【アイデアとプラン】

絵本作家20周年を超えてますますクリエイティブに活動を展開する tupera tupera は、コラージュ技法を中心に、さまざまな表現方法で次々に新しい作品を発表しています!

制作担当は亀山氏がアイデアを中心に中川氏が作り上げていきます。アイデアとプランの割合は作品によって違います。

『パンダ銭湯』（絵本館）『しろくまのパンツ』（ブロンズ新社）など

### 絵本紹介⑬

### 『きゅうきゅうフーフー』

tupera tupera 岩崎書店/2021年

表紙からはなかなか想像できないけども、題名から連想することはできる! 史上初のキューブ型絵本。正立方体の形は飾って可愛い、読んで楽しい♪ 中身も繰り返しとリズムがあり読みやすく…しっかりとオチもある!

### 『ミライチョコレート』

ザ・キャビンカンパニー 白泉社/2024年

今から1000年後、緑化しまくった地球が舞台。便利になりすぎた未来で女の子が手作業でチョコレートを作る物語。自分で苦労して手を使い体を使い作り上げる大切さが込められています。

### 絵本紹介⑭

### ザ・キャビンカンパニー

阿部健太郎氏と吉岡紗希氏【無機物と有機物】

生まれも育ちも住まいも大分県。絵本作家15周年を迎え、大規模な展覧会が全国を巡回中。ベニヤ板をキャンバスにして二人が同時に絵を描きこんでいく唯一無二のスタイル。阿部氏が直線的、吉岡氏が曲線的な絵を担当しています。初期作品からどんどん絵柄が変化していて今後も注目!

『しんごうきピコリ』（あかね書房）『ポケモンのしま』（小学館）など

### はらぺこめがね

原田しんや氏と関かおり氏【食べ物と人や食器】

絵本作家12年。これまで出版した絵本はすべて『食べ物と人』がテーマ。原田氏が食べ物の絵を描き、関氏が人や食器などを描く。本物以上のシズル感たっぷりの食べ物と独特な色彩の人物やデフォルメされた食器によだれが止まらない。

『にくのくに』（教育画劇）『みんなのおすし』（ポプラ社）など

### 絵本紹介⑮

### 『たべてうんこしてねる』

はらぺこめがね 岩崎書店/2023年

『食べ物と人』がテーマの究極の形のひとつ。食べてウンコして寝る。「それが出来ていれば人間充分とちゃいまっか?」と投げかけられています。シンプルだからこそ深みがある!



今回紹介した3組の他にもまだまだたくさん夫婦ユニット絵本作家がいます。夫婦で絵本作家をすることでイメージをより膨らますことができたり、お互いの長所を活かした制作活動をしていたりしています。【三人寄れば文殊の知恵】という言葉がありますが、二人でも『1+1=2+α』ということなのでしょう!

保育園でも子どもがひとりで遊びこむことで、楽しさが深まっていく姿がありますが、友達や保育士と共に活動していくことで遊びやイメージが広がっていくこともあります。もちろん! ひとりではないことでのトラブルやケンカもありますが、それも含めて大切な営みと考えます。

今回注目した絵本作家のみなさんとお話する機会がありますが、それぞれ「ケンカ? しまずします!」と同じように言われます。それでも同じ仕事を同じ空間で行う中で、お互いに刺激しあい、高めあっているんだろうなあ。これからたくさんの楽しい作品を楽しみにしています♪

# せんせい、いつもありがとう

～保育士の先生に日ごろの感謝の気持ちを伝えてみませんか？～

若者や社会全体に向けて保育の魅力を発信し、保育人材の確保・定着を進めるため、保護者や園児等から保育士や幼稚園教諭への感謝の気持ちを伝えるメッセージ投稿を募集したところ、延べ187件の投稿をいただきました。投稿いただいた皆様、ありがとうございました。

なお、いただいた投稿内容は県ホームページで公表しているほか、県庁、県社会福祉協議会、県立図書館、その他イベント等で展示する予定です。【鳥取県子ども家庭部 子育て王国課】



## <取組概要>

- 1 投稿内容 保護者・園児・卒園児等から保育士・幼稚園教諭への感謝・応援メッセージ
- 2 投稿期間 令和6年7月18日～8月31日
- 3 投稿件数 187件



※投稿いただいたすべてのメッセージは県ホームページからご覧いただけます →



## <いただいた投稿内容（一部抜粋）>

先生方がとても優しく気を使ってくださったり、一人一人を大切にされている事が伝わってきます。小さい子から卒園児まで温かく接してもらえホッとするしいつでも相談しようと思える場所になっています。感謝です。（鳥取市、名無しさん）	赤ちゃんの頃からお世話になっている娘は、先生方が大好きです。いつも子どもの気持ちを大切に、それぞれのペースに寄り添ってくださる先生方に感謝でいっぱいです。いつもありがとうございます！（鳥取市、ぎょうざさん）
2歳の息子のママです。色々な言葉を少しずつ覚えて喋り出しました。子どもの気持ちが分からず困ることがありますが、先生方から学んだことを家で披露する姿を見ると嬉しくなります。先生方ありがとうございます！（米子市、のりんごさん）	日頃から感謝の気持ちでいっぱいです。地元関西から離れて暮らしておりますので気軽に頼れる親族がいない中、息子と私にいつも笑顔で挨拶してくれる先生方がいる事が私の心の支えです！いつも有難うございます！（米子市、SUNさん）
色々な特性をもっている長男ですが、本人の意思を尊重しながら、みんなが楽しく園生活を送れるよう様々な工夫をしてくださってありがとうございます。次男は熱があっても玄関で靴を履くくらい保育園大好きです。（倉吉市、たくりんさん・ひかりんさん）	毎日の活動や制作等、「どうやったらそんなアイデアが思い浮かぶの!？」と驚くような趣向を凝らしたもののばかりで、感動しています。保育士の先生は、初めての子育ての親にとっては特に心強い存在です。（境港市、みむさん）
せんせい、たくさんだっことしてくれてありがとう。こわいとき、てをつないでくれてありがとう。えほんをよんでくれてありがとう。せんせいみたいになりたいからほいくしさんをめざします。ゆめをくれてありがとう。（湯梨浜町、卒園生さん）	毎日保育園行きたい！〇〇した！先生大好き！など保育園での出来事を教えてくれるので、本当に今の園に預けてよかったなと思います。育児についての相談事も聞いてくださり感謝でいっぱいです。ありがとうございます。（日吉津村、かいかいさん）
「…先生と…先生と遊んだ。」と教えてくれる子どもたち。毎日お友達の名前よりも先に先生方の名前が出てきて、心から信頼してるし好きなんだなあと感じて感謝しています。いつも本当にありがとうございます。（大山町、すばなるさん）	先生方には感謝しかありません。家ではなかなか出来ないことを子ども達に経験させてくださりありがとうございます。毎年発表会や運動会も、準備が大変だと思います。子どもたちのためにありがとうございます。（伯耆町、名無しさん）

## 編集後記

去年の12月27日に保育園の隣の家の庭にヒマワリが咲き思わずシャッターを切ったことを思い出しました。季節外れのものでした。気象の変動の影響かなあ。猛暑とか局所的な大雨とか大雪とかもあるし。

（H・S）

今年も猛暑でしたね。先日年長の男の子が「ヘラクレスオオカブト」を家から持って来てくれて、園中大騒ぎでした。世界最大の種ということで、まあ大きくてパワフル！夏バテ気味の心身にいっぱい元気をもらった夏でした。（S・M）

夏の暑さにも負けずにさつま芋が畑に育っています。どんな芋ができたのか楽しみにしている子、つるを使って綱引きがしたい子、畑の虫探をしたい子など、芋掘りへの期待が膨らんでいます。私は「焼き芋が楽しみです！」（S・M）

給食を食べながら3歳の女の子が突然「〇ちゃん、ゴリラになりたい！」と発

言。動物の話題で盛り上がったいたわけでも、バナナを食べたわけでもないのに、まさかの宣言に思わず笑ってしまいました。子どもの思考回路は無限大ですね。（M・M）

高温が長く続き、酷暑と言われた夏でしたが、先日、秋の味覚の梨をいただき、旬の食材を食べることで季節が巡る喜びを感じました。季節のパワーを日々の暮らしの中に取り入れて四季を感じ、エネルギーに過ごしていきたいと思いました。（S・N）

今年は、5年ぶりに、夕涼み会を開催することが出来ました。去年は、大雨警報が発令され中止となり、今年こそはと時期を8月の終わりにずらし開催を予定しました。が、まさかの、大型の台風接近、のろのろ台風でなんと遅い、祈るしかありません。朝、カーテンを開けると陽の光が差し込んできました。祈りが通じました。5年ぶりに、園庭に子どもたちを中心に笑顔が生まれる光景が広がるような時間でした。（K・N）

## 〔全私保連推奨〕各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人  
全国私立保育連盟



東京海上日動

### ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

### やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

### えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

### しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱  
代理店

有限会社ゼンポ

TEL：03-3865-3881  
FAX：03-3865-2806



引受  
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881  
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・追加料金一切なし

すべての機能使い放題／

月額 5,500円(税込)のみ

無料体験実施中! →

お申し込みは  
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に  
きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886